

## 【令和5年度授業改善推進プラン 体育】

板橋区立高島第三小学校

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・休み時間になると、広い校庭を利用して、おにごっこや縄跳びをして身体を動かし、元気に遊ぶ児童が多い。全体的に運動を好む児童が多い。</li><li>・令和4年度に実施した体力テストの結果を分析すると、「握力」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」の学校平均が全国の平均を下回っていた。特に「20mシャトルラン」は全国と比較して、男女ともに5ポイント低くなっている。</li><li>・コロナ禍による、ボールを使った運動の機会減少により、ソフトボール投げのような「投げる」動きをすることが少なくなっている。</li></ul>
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・握力、反復横跳び、20mシャトルラン、ソフトボール投げに関しては、体力テストの期間に集中して行うことが多く、単発的な取り組みで終わってしまう可能性が高い。そのため年間を通して、意識的に体育の授業や日常の経験において身に付けさせていくことが必要である。</li><li>・体育が好きな児童は、体力テストにおいても成績が良い傾向にあるので、多くの児童が低学年から身体を動かす楽しさを味わい、体育が楽しいと思える環境作りが必要である。</li><li>・高学年では、中学校で行う領域を見据えた指導が必要になってくる。陸上競技や球技など、様々なスポーツの運動特性を十分に味わうことのできる指導が必要である。</li></ul>

■授業改善に向けての  
具体的な方策

- ・握力に関しては、鉄棒や登り棒、雲梯などの握ってぶらさがる動きが含まれる運動遊びを取り入れる。低学年のうちから運動に親しむことで、中学年、高学年での能力の向上を目指す。
- ・反復横跳びでは、跳ぶ、はねるなどの敏捷性を高める動きを体づくり運動に積極的に取り入れる。
- ・20mシャトルランでは、毎年取り組んでいるマラソン月間を充実させ、授業の最初にランニングを取り入れ、持久力を向上させる。
- ・「投」の動きに関しては、ボールを遠くに力一杯投げることによって指導の主眼を置き、体の動かし方を体得させ、ゲームや遊びにつなげていくことで技能の向上を目指す。
- ・低学年から、身体を動かす楽しさを味わわせるため、広い校庭を利用し、遊びの中で様々な体の動きを経験させ、体育が楽しいという意識を向上させていく。
- ・すべての児童が、体育授業に楽しみや達成感を味わえるように、平易な場を設定したり、ルールを簡素化したりすることで、個々の能力によって選択できるようにする。
- ・児童の思考・判断を促すため、ワークシートやタブレットPCを活用し、児童の考えや気付きを記録できるようにする。
- ・運動の場やワークシートなどに動きのポイントを提示し、児童の知識・技能向上を図る。また、主運動につながる動きを取り入れた準備運動を行い、動きの習得を目指す。